

目 次

まえがき	i
序 章	1
1. 記憶の収録：方法と課題	3	
歴史を考え直すための三つの手法	3	
インタビュー実施とその過程での迷い	4	
インタビュー方法の模索—本音を聞きだすために—	5	
インタビュー対象者の選定	7	
インタビューと言語の関連性	9	
インタビューの進行形式	10	
2. 日常生活からみた歴史の正当性—意義と特徴—	11	
誰かと共に歴史を考えること	14	
個人のライフストーリーを通じた社会の多様性の追求	14	
3. 現地調査における課題	15	
概念的な課題	15	
インタビュー実施における課題	16	
本書の構成	18	
確 認 票	18	
質 問 票	19	
第1章 近現代史の概観	21
1. 帝政ロシア統治下の中央アジア	22	
2. ロシア革命後の中央アジア	25	
3. ソビエト体制の成立	27	
4. ソビエト政権と国民	30	
ま と め	35	

第2章 スターリン時代におけるソビエト化と一般国民の生活 … 37

1. ウズベキスタンにおけるスターリン時代とは 37
 - 1.1 政治環境 37
 - 1.2 スターリン像 38
 - 1.3 国家政策と国民の関係 40
2. 集団化と一般国民 42
 - 2.1 受け入れられていた集団化 43
 - 2.2 強制された脱クラーク化と集団化 45
 - 2.3 混乱のもとになった集団化 50
 - 2.4 集団化から逃げた人の運命 51
3. スターリン時代の弾圧 55
 - 3.1 弾圧の目的と実態 55
 - 3.2 反対者の弾圧と恐怖感 58
 - 3.3 民族の強制移住 61
4. スターリン時代と社会の現状 64
 - 4.1 スターリン時代の経済状況と人々の生活 64
 - 4.2 社会の現代化と人々の動揺 68
- ま と め 70

第3章 第二次世界大戦 …………… 73

1. 第二次世界大戦への参戦 73
 - 1.1 「大祖国戦争」で戦った人々 73
 - 1.2 戦争中の経済支援 77
 - 1.3 戦争に対する多様な態度 80
2. 戦時下の生活 82
 - 2.1 労働時間の延長 82
 - 2.2 戦時下で生き残るために 83
 - 2.3 戦争中の教育 86

3.	戦後	88
3.1	戦後の苦難	88
3.2	日本人との接触	90
	ま と め	92
第4章	スターリンの死と時代の終わり	93
1.	政治環境の変化	93
1.1	スターリンの死	93
1.2	その後の政権争い	95
2.	国民の目線から	96
2.1	国民の悲しみ	96
2.2	死がもたらす不安	98
2.3	国民の喜び	102
	ま と め	104
第5章	停滞の時代か、黄金時代か	107
1.	新しいリーダーシップの時代	107
1.1	記憶の希薄なフルシチョフ時代	107
1.2	ブレジネフ書記長の登場	108
1.3	指導スタイル	110
1.4	書記長としての働き	112
2.	ラシードフのリーダーシップ	114
2.1	政治家としてのラシードフ	114
2.2	国民のラシードフ像	116
2.3	ラシードフと綿花事件	118
3.	日常生活の中での「黄金時代」	123
3.1	時代の評価	123
3.2	経済状況	125
	ま と め	130

第6章	ソ連時代のコミュニティ観—マハツラの事例から	133
1.	ソ連時代のウズベキスタンのコミュニティ	133
1.1	ソビエト政権とマハツラの関係	134
1.2	ソ連時代のマハツラの実像	136
1.3	住民間の交流・情報交換・助け合い	139
2.	ソ連時代のコミュニティの価値観とその変容	143
2.1	ソ連時代のマハツラにおける人間関係	143
2.2	伝統教育の場としてのマハツラ	145
2.3	民族融合の場としてのマハツラ	149
3.	ソ連崩壊とコミュニティ	151
3.1	生活支援の制度	153
3.2	行政としての生まれ変わり	155
	ま と め	161
第7章	宗教と社会	163
1.	政権の対宗教政策と人々の対応	163
1.1	1917年革命以降のイスラーム	163
1.2	宗教と共産党	169
2.	ソビエト社会における宗教の役割	173
2.1	宗教に対する世代間・民族間の温度差	173
2.2	ソ連時代の教育と宗教を巡る人々の迷いと混乱	178
3.	ソ連時代の宗教行事	182
3.1	日常生活の中のイスラーム	182
3.2	ソ連時代の宗教行事	184
	ま と め	188
第8章	ソビエト国民の諸相：民族と言語	189
1.	ソビエト政権の民族政策とウズベキスタン	190
1.1	民族・言語政策の中心としてのロシア化政策	190

1.2	民族間の違いと民族的なメンタリティの違い	192
2.	「ロシア化」とウズベキスタンの社会状況	194
2.1	「ロシー」とよばれる社会層の存在	195
2.2	「ロシア化」への反感	198
2.3	国際化の一環としてロシア化の支持者	202
3.	タシケント大地震と民族間関係	204
3.1	タシケント大地震	204
3.2	タシケントに対する連邦の支援とタシケントの多民族化の拡大	205
	ま と め	208
第9章 独立後に現れたノスタルジー		211
1.	ソ連時代の社会と価値観	212
1.1	ソ連という祖国に対する誇りとノスタルジー	212
1.2	ソビエト型の「自由な」社会	214
1.3	ソ連時代の人間関係	216
2.	ソ連時代における日常生活と政治	218
2.1	政策と生活の改善	218
2.2	人々の日常生活と党・政府の役割	221
2.3	生活の安定と欧米型の民主主義	227
3.	ソ連時代の日常生活と経済	233
3.1	日常生活の実態	233
3.2	日常生活における問題点と腐敗	236
3.3	孤立した国でも気に入っていた	242
	ま と め	246
	おわりに	249
	参考文献	253
	あとがき	263
	索 引	267